



春闘 これまでの国労運動を大切にしながら 共に考え前に進んでいこう！

執行委員長 天野伸行



組合員ならびにご家族の皆さま、新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスとの戦いが続く中、3年ぶりの行動制限のない年始を迎えました。全国では感染の波が徐々に押し寄せ、専門家の予想によれば「第8波は非常に大きな波になるおそれがある」として警鐘を鳴らしています。感染者の特徴は若年層の感染が目立っており、小児科など一部の医療機関で

医療提供体制がひっ迫している状態に陥っています。

組合員・家族の皆さまにおかれましては、感染対策を継続していただきたいと思います。地方本部としても引き続き、感染防止に配慮した取り組みを検討していかなくてはならないと考えています。是非、ご理解していただき、感染に気を付けていただくことをまづもって申し上げたいと思います。

西日本会社はこのコロナ禍による減収を契機に今年2月、「ローカル線に関する課題認識」を示し、輸送密度2000人未満17路線30線区のあり方を見直す方針を明らかにしました。他のJR会社も西日本会社の右に倣えとばかりに輸送密度の数値を明らかにし、赤字ローカル線を維持するの

に苦慮していることを全面に押しだしています。そして、その流れに相まって今年7月には地方鉄道のあり方を議論してきた国の検討会が「輸送密度」1千人未満の区間を対象に、バスなどへの転換も含め、協議を進めるべきとする提言がまとめられました。その前提は「廃止、存続ありき」といった前提を置かないというものの、国が主体的に関与することが適当であるとされています。つまりこの提言は国主体でその枠組みを設置し、地交線のあり方の判断を早めていくことであります。したがって、その結果ローカル線廃止に向けた動きに一層拍車がかかることは間違いないといえます。その意味でも、生活を

を守り、安全で働きやすい職場をつくりあげ、そして誰でも安心して利用できる公共交通機関を確立するという、労働組合としての喫緊の任務を如何に前進させ

ていくのかが問われています。組織の強化・拡大の取り組みは、私たちにとって重要な運動の柱です。しかし「動かなしに拡大なし」ではありません。コロナ禍によって動きが取りづらいうという側面もあるかと思えますが、いろいろ工夫しながら、拡大対象者というように大きく構えることなく、他労組の仲間との関わる場をもちながら「国労を知ってもらう」というところから行動を開始すればよいと思えます。あまり結果を早く求めず、拡大行動を増やしていただき、お互いに喜び合える日を迎えたいと思えます。

地本役員

執行委員長	天野伸行
執行副委員長	三宅明
書記	青山准三
執行委員	片岡有宏
	小林靖浩
	勝田哲也
	高見光彦
第一支部委員長	亀高裕幸
第三支部委員長	西原浩
会計監査	岡本岩夫
書記	古賀由恵

今年もよろしく
お願いいたします

なりません。

私たちを取り巻く状況は厳しい中にありますが、いま私たちが主張し取り組んでいる運動は何ら「おかしい」ものではありません。まずそのことに自信をもつことが大切であると思えます。その自信は、これまでの国労運動の正しさに裏打ちされた自信であります。今後においても、そうした国労運動の歴史を大切にしながら、地方本部運動を全組合員で前に進めていく、その決意を改めて申しあげるとともに組合員・家族の健康とご多幸を祈念し新年のご挨拶と致します。共に頑張っていきましょう！